



ラッキーナスビ2.5



トイレはどんな場所ですか？

あなたにどうして

「トイレ」とは……？

気持ちよさを贈り合う場所

みなさんにとって、「トイレ」とはどのような場所でしょうか。この質問に対する答えのなかで、最も一般的なものは「おしっこやうんちをする場所」という答えでしょう。大正解です。

でも、別の視点から「別解」を出すこともできます。みなさんは、どのような「別解」を考え出すことができるでしょうか。

たとえば、次のような別解を出すこともできるのではないのでしょうか。それは「気持ちよさを贈り合う場所」です。

私たちは、何か贈り物（プレゼント）をもらうと嬉しい気持ちになります。でも、嬉しい気持ちになるだけではなく、こう思います。「次はこちらからお返しをしたいな。」年賀状をもらったり、誕生日プレゼントをもらったり、「ありがとう」と言われたりしたら、「お返ししたいな。お返ししなきゃね!」と思うことがよくあるのではないのでしょうか。

思想家・哲学者である内田樹さんは、その著書『呪いの時代』（新潮社）のなかで次のように言っています。

贈り物をされると「お返し」をしないとどうにも気持ちが片づかない。この「片づかなさ」が人間社会を「人間的なもの」たらしめている。この「片づかない気持ち」が人間社会とサル社会を隔てている。人間性とは、すべての装飾を剥ぎ取る

って言えば「贈り物」をもらうと、お返しをしないと『悪いこと』が起きそうな気がする」という「負債感」のことです。いや、ほんとに。

もう一文、どうぞ。

「これは贈り物だ」と思った人が思う瞬間に価値は生成する。そういうふうな順逆の狂ったかたちで贈与という儀礼はつくられている。

例えば、挨拶というのはある種の贈り物です。「おはよう」と誰かに呼びかけられる。僕たちはそれを聴くと「ちらも「おはよう」と言わなければならぬ」という強い返礼義務を感じます。負債感と言ってもいい。同じ言葉を返さないで気持ちが片づかない。挨拶した方もそうです。挨拶したけど返礼がないということになると、気持ちが片づかない。片づかないどころか、心に傷を負います。

このような考え方を、学校で毎日お世話になっているトイレ、そして、トイレを使い合う仲間との関係になぞらえてみましょう。

たとえば、ある人が「次に使う人のために」と意識したわけでもなくトイレのスリッパをきれいに並べました。すると、次にスリッパをはこうとした人が、「あっ、きれいに並べてくれてる。これは自分への贈り物だな」と感じます。贈られた人は、お返しをしようとして、自分がはいたスリッパをきれいに並べます。

内田さんが言っていることは、トイレの使い方にも十分応用可能なものではないのでしょうか。

トイレとは、気持ちよさを贈り合う場所

“贈り物”だと感知して“お返し”する、そんな空間にしよう。

トイレのほかには……？

トイレ以外に「贈り物」だと感知して「お返し」する、そんな空間は学校にないでしょうか。



内田さんが例示しているように、あいさつもそうでしょう。日ごろ、何気んやっているあいさつも「贈り物」だと感知するだけで生活はもっと彩りあるものになりそうです。

ロッカーの使い方もそうです。整理整頓されているロッカーを見て、「いい気持ち」を贈ってくれているなあ」と感知するだけでも生活が変わりそうです。

プリントを後ろの人に回したり、落としたものを拾ってあげたり、「ありがとう」と言ったり……

日常にあふれている誰かとのやりとりを「贈り物」だと感知していく、そんな構えをつくってみるのも良いのではないのでしょうか。

日常、当たり前にあるものを、誰かからの「贈り物」だと感知して、それに対して「お返し」することを作り出すことを通して、みんなが気持ちよく過ごせる空間を創り出していくことができる。

この「ナスビの売り方」はいかがですか？

今日トイレを使うとき「贈り物」を探してみませんか？もしなかったら！あなたが「贈り物」を創ってみませんか？